

上原 勇 夫 氏 採 集 資 料

～今山遺跡採集の石器類～

江野 道和（伊都国歴史博物館）

I はじめに

糸島の東端に位置する今山は、良質の玄武岩を産し、石斧の一大産地として名高い山である。学史上も欠くことのできない重要な山で、その調査・研究の歴史は古い。学史は、大正12（1923）年の中山平次郎博士の調査を嚆矢とし、合計8次に渡って福岡市教育委員会を中心とするトレンチ調査や分布調査などが行われてきた（表1）。また、在野の考古学者や歴史愛好家たちの収集のメッカでもあり、原田大六氏の収集資料や元玄洋公民館の大内士郎氏の資料（大内1994）などが有名である。

さて、本稿で資料紹介をする故上原勇夫氏の採集資料について、大内氏から相談を受けたのは平成21年度のことであった。当館の学芸員であった三嶋直子（当時檜崎）と私の二人は、上原氏の資料が保管されていた横浜自治会館へ行き、状況を確認した。資料は自治会館の屋外倉庫の内外に野積みになれおり、特に外の遺物はいつ盗難を受けてもおかしくない状態で、早めの対処が必要であった。また、当日立会をいただいた大内氏からは資料の説明と上原氏の遺族から寄贈の願いがある旨をうかがった。

伊都国歴史博物館は「伊都国」を展示の中心テーマに据えた館であるが、伊都国の交流を物語る遺跡「今山」については隣市に位置することもあり、出土品をほとんど収蔵していない状況であった。そこで、寄贈を最終目標とし、これに向けて、遺物の内容を確認するための予備調査を行うこととした。なお、大内氏の仲介で、上原氏の資料は、当館と福岡市博物館で半分ずつ保管することとし、現地で分配した後、当館分を預かった。

平成22年度から資料の整理作業に着手し、水洗作業、分類を行った。また、主な遺物については、写真撮影および実測作業を行った。

本稿では、上原氏の残した採集記録から収集の状況と概要を紹介するとともに、採集品の内、主

なものについて取り上げ、資料紹介としたい。

II 上原勇夫氏の採集

上原氏は遺物の採集にあたって、B5サイズの野紙3枚に渡る手書きの記録を残していた。ここでは、勝手ながら氏の記録を活字に起こすとともに、活動の概要を紹介したい。

1) 採集期間

上原氏の採集記録（表2）の中には、「月・日」の記述は有るものの、「年」の記載が無い。このため、残念ながら正確な記録の年はわからない。ただ、上原氏の知人であった大内氏にうかがうと昭和50年代頃に拾っているのを見たとのことである。また、遺物に付けられたラベルの中に「与吉山畑58. 2-3」（昭和58年の2～3月の意味か）と記されたものがあることから、少なくともこの年月以降には採集活動を開始していたことがわかる。

一方、採集記録の中には、福岡市教育委員会が昭和59年度に行った第6次調査のトレンチが記されている（1月15・16日、2月1日）ことから、記録が書かれたのは昭和59年以降であることがわかる。また、遺物の注記の中には、「6□. 3. 26」（□の文字は消えかけており、正確な判別は困難）と書かれているものがあることも加味して推測すると、記録の年は、昭和59年～60年代前半であった可能性が高い。

なお、記録された期間は、12月11日から始め、年を過ぎ2月17日までの約2ヶ月間。延べ日数としては47日に上る。ただし、上記のとおり、昭和58年の日付が書かれたラベルの存在や、「6□. 3. 26」の注記、その他にも「3月10日」「早川3月16日17日」などのラベルがあることから、記録された期間の前後にも詳細はわからないが、活動が行われていたと考えられる。



第1図 今山遺跡における上原勇夫氏の採集地点と過去の調査地点

- 1・2 中山平次郎博士報告地点
- 3～20 福岡市教育委員会調査地点
- ▲ 昭和 59 (1984) 年度の遺物採集地点 (福岡市教委)
- ※ 6は地図の南東側範囲外のため、欠番
- ※ 調査地点ごとの詳しい内容は表 1 を参照

○ □ 上原勇夫氏の採集地点
(アルファベットは、採集地点の地権者やお堂の名前などを元に、上原氏自身が付けたもの)

表1 今山遺跡発掘調査地点一覧

地点	地点 調査・確認年月	調査主体 (担当者)	内 容	備 考	文献
1	大正12年早春	(1923年)	中山平次郎博士	熊野神社の後側で、玄武岩の露出を発見。周囲に石斧未製品が散乱しているのを確認	1
2	昭和5年4月	(1930年)	中山平次郎博士	鉄道開鑿により露出した包含層を調査。石斧未製品と弥生土器などを確認。	この年は5ヶ月間にわたって、踏査
3	昭和43年12月	(1968年)	福岡市教委 (下條信行)	西の山頂、標高82mの地点で、長径4.5m、幅2m、厚さ2mの露頭が横たわる。	【第1次調査】 文献(2)では、第3遺跡
4	昭和43年12月	(1968年)	福岡市教委 (下條信行)	石斧未製品のほか、弥生土器、玄武岩塊、石屑片などが出土	【第1次調査】 文献(2)では、第4遺跡
5	昭和49年3月	(1974年)	福岡市教委 (下條信行)		【第2次調査】
6	昭和51年7～8月	(1976年)	福岡市教委 (折尾学)	銅剣・勾玉などが出土	※第1地図の南東範囲外
7	昭和51年7～8月	(1976年)	福岡市教委 (折尾学)	石斧未製品163点、製塩土器、玄武岩の剥片などが出土	【第3次調査】 文献(3)では、42・43地点
10	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	多量の剥片と石斧未製品出土	【6次調査】
11	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	柱状原石と多量の剥片、石斧未製品出土	【6次調査】
12	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	玄武岩露頭周辺で、多量の剥片と石斧未製品出土	【6次調査】
13	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	奈良時代の掘立柱建物検出	【6次調査】
16	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	遺構確認調査	【6次調査】
17	昭和59年10～11月	(1984年)	福岡市教委 (井澤洋一、米倉秀紀)	原石と石斧未製品、多量の剥片出土	【6次調査】
19	平成8年7月	(1996年)	福岡市教委 (米倉秀紀)	石斧未製品4点、叩石1点、剥片、弥生土器などが出土	【第7次調査】
20	平成11年9～12年3月	(1999年)	福岡市教委 (米倉秀紀)	縄文時代石斧未製品、縄文前～後期初頭の土器他出土	【第8次調査】

※【第1次調査】から【第5次調査】にかけては、報告書により回数に混乱が生じている。この表は文献4に従って作成した

※【第5次調査】は、今山南東麓に2ヶ所のトレンチを入れる。製塩土器のみ報告

※【第6次調査】の8～9・14・15・18の調査区は、内容がわからないため欠番とした

表2 上原勇夫氏 今山遺跡採集記録

月	日	場 所	作業	内 容	備 考
12	11	お宮の南側下広場	採	石6個	石は石斧未製品か。以下同じ
	15	永田裏山 (N)	採	石7～8本、叩石3個 軒下置	
	16	昭三氏小屋	採	叩石2～3個	場所の特定不能
		秀次郎宅裏	採	石2本	場所の特定不能
	22	永田 (N)、お宮 (K)	採	石7～8本	
		倉助宅 (M)	採	温石3個	温石=滑石
	23	倉助氏山畑 (大下C・大下D)	採	石製品折10本、叩石17～18個 外、石未製品沢山。2袋+2袋 全部 (で) 50～60個位い 「石大7個、小26個、叩石15個」	
	24	倉助 (氏山畑か?) (大下C・大下D)	採	石製品8本、叩石20個 深く掘る。巾も広くする。30糎掘下げる。 石大7本、小5個、叩石6個	石製品は石斧未製品か
	25	倉助 (氏山畑か?) (大下C・大下D)	採	石大6、小6、土器沢山12個位 石大10、小13、叩石15個	
	28		採	石斧取り	
			洗	洗い「23日、24日分外、叩石23個有」	
	30		採	石斧 叩石	
1	31			<空欄>	
	1		採	石斧 叩石 2袋	
			洗	石斧洗い	
	2		整	(採集品の数を) 調	
				石 叩石	
				23日 大7、小26 23	
				15	
				24日 大7、小5 6	
				25日 大10、小13 15	
				(合計) 大24、小44 59	
	3,4,5			休	
	6		採	石7～8本 叩石14～15個 土器	
	8	文男 (SH)、大師堂 (TA)、猛畑 (大下F)	採	石1袋、叩石1袋、外5袋、計7袋	

月	日	場 所	作業	内 容	備 考
1	9		回	猛畑（大下F）8日採集分運搬5袋	運搬の5袋は、8日の外5袋に該当か
	10	永田（N）、安見（Y）	採	石6～7本。先日分加える 軒下置	
	12	早川（HA）裏	採・洗	1袋。12日洗い	
	13		洗	石斧洗、箱詰め	
	14	猛（大下F）	採	石15～20本、叩石、土器5個、温石1個 （合計）3袋	温石＝滑石
		倉助（M）	採	叩石 1袋	
	15	4号トレンチ（第1図－●11）下	採	1袋	
	16	今山頂上（G）	採	石3～4本、スリ鉢底	
		4号トレンチ（第1図－●11）横上	採	石7～8本 （計）2袋	
	17	お宮南側下広場	採	石4袋	
	18	猛（大下F）	採	石、叩石 2袋	
		倉助（大下C、大下D）	採	石小5～6個 叩石 1袋	
	19	猛（大下F）	採	石小 1袋	
			回	猛の18日2袋、倉助18日1袋、19日猛1袋取り 計4取り	現地に置いていた袋を取りに（回収しに）行ったのか
			整	猛 18日「3-3」－「3-2」－「3-1」分	「」内は袋に付けた番号か
	20	猛（大下F）	採	2袋	
		倉助（大下C、大下D）	採	石7～8、叩石6～7個「赤石」 1袋	
	21	猛山畑（大下F）	採	全部終わる 2袋	
		（猛の）上部右側上畑	採	石14～15本、叩石多数、土器多（数）	大下FとSHの間か
	22	猛（大下F）右側	回	昨日（21日）掘 1袋 残り1袋置く→1袋持参	21日の採集品計2袋を2回に分けて持って帰ったということか
		文男（SH）	採	石2本、叩石4個	
		池松（大下E）	採	石1、叩石5	
	23		回	猛（大下F）1袋、倉助（大下C、大下D）1袋持ち帰る。計2袋	
	25	倉助（大下C、大下D）	採	石7～8、叩石50、紋入瓦「藤黒田藩の紋」後片付	
	26	倉助氏山畑（大下C、大下D）	採	倉助氏山畑、今日午後埋立て始める。埋立てる時が良いものが出る。石15～16個、叩石60個。2袋持ち帰る、残3袋	
	27		洗	倉助石斧洗い。25日「2-2」、26日「2-1」、「2-2」。27日分4袋洗い。	
	28		洗	終日石斧洗い。猛（大下F）17～18袋、倉助（大下C、大下D）6～7袋 9：30～15：30	
	31	猛氏（大下F）右側上	採	2袋	
2	1	3号トレンチ（第1図－●10）	採	「5～6石斧」半袋	
		永田裏山（N）	採	1袋半	
		猛（大下F）	採	1袋	
		倉助（大下C、大下D）	採	1袋	
			整	2袋午前中（3号トレンチ、N） 2袋午後（大下F、大下C、大下D）	1日の採集総量
	2	猛（大下F）	採	残り物石斧7個	2ヶ所の合計で2袋か
		倉助（大下C、大下D）	採	石大、温石大1 2袋	
	3	猛（大下F）	採	石大6個	2ヶ所の合計で2袋か
		倉助（大下C、大下D）	採	石8個、叩石3個、叩石大1個、温石大1 2袋	
	5	猛（大下F）、倉助（大下C、大下D）	採	残り物拾い小型 2袋	
	7	倉助（大下C、大下D）	採	石小物 1袋	
		猛（大下F）右側上	採	1袋	
	8	喜代美氏小屋	採	石斧仕上げ品折れ1本、叩石1、4＝宅、温石（合計）1袋	場所の特定不能 4＝宅とは4袋を自宅に持ち帰ったということか
	9		洗	5、7日分4袋洗い	
	10	猛（大下F）右側上	採	石斧3～4、叩石20 （合計）1袋	
	11	猛（大下F）右側上	採	石2～3、叩石10、カメの底土器 （合計）1袋	
	12	池松（大下E）横畑	採	石2～3本	2ヶ所の合計で2袋か
		猛（大下F）右側上	採	石4～5本 2袋	
	13	八幡（P）、文夫（SH）畑、安川（YA）畑	採	石斧3～4本、叩石10個 （合計）1袋	
		倉助畑（大下C、大下D）	採	原石1袋	
	14	安見（Y）裏山、与吉畑（YK）横	採	石斧小沢山 2袋	
	15		整	石斧保存柵作り	
	16		回	安見（Y）裏、14日掘り取り	
		佐伯畑	採	砥石1、叩石1、石包丁1 2袋	場所の特定不能
	17	横浜歩道電柱建穴	採	叩石4、温石1	場所はMKか

※（ ）内は筆者が加筆。他にも、記述や漢字、送り仮名などを統一した部分がある
※「作業」覧は筆者が分類。採＝採集 回＝遺物の回収 洗＝洗浄作業 整＝整理作業

2) 採集記録概要 (表2)

上原氏は今山における採集をお宮の南側下広場から開始している。開始日となった12月11日には、石斧未製品6点を現地にて採集した。これから22日までの4日間は、今山の中腹にある熊野神社から山麓の南側および南東側まで広く歩いており、採集した点数も比較的少ない。したがって、この期間は採集よりも分布状況の確認に重点を置いていたものと考えられる。

続く23日からは採集活動が本格化する。採集地点を南東麓、特に大下C・D・F (第1図) を中心とし、基本的に年明けの1月14日までこの周辺で収集を行う。中でも、1月8日には7袋分を採取しており、一日あたり量としては最多となった。したがって、この日は全ての遺物を持ち帰れなかったのか、翌日9日に5袋ほど回収したようだ。このように、採集→後日回収の流れはこの後も散見されるようになり、「採集日は作業に集中」し、「回収は別の日に行う」手順が出来上がったものと思われる。なお、12月28日～1月1日までは収集した員数が記録されておらず、後日纏めて書かれたようにも見える。年末・年始の慌ただしい時期、採集はしたものの、記録を付ける暇が無かったようすが垣間見えるようだ。

1月12日、15～17日の4日間は、今山山頂から中腹および西側へ採集地点を移動する。この期間には「4号トレンチ下」や「4号トレンチ横上」という記載があり、福岡市教育委員会が行った調査トレンチを基準に自身の採取地点を表していることがわかる。このトレンチについては同教育委員会の刊行図書には位置の記載がないため、上原氏は、調査の現地説明会や講座に積極的に参加して、トレンチ名を含む情報を得た可能性が高い。

1月18日からは再び南東斜面に採集地点を移動する。21日には大下F地点での記述に「全部終わる」とあり、良品を拾いつくしたのかも知れない。このあと、しばらくは当地点での採集は途切れるが、26日には好機が訪れたようだ。「倉助氏山畑、今日午後埋立て始める。埋立てる時が良いものが出る」との記述があり、土を動かしたことにより、新たな遺物を得たようだ。上原氏の記録は基本的に遺物名や数量、作業内容の簡条書きで有り、このように文章が入ることは異例である。氏の期待と喜びが伝わってくるようである。なお、

この前日25日には「後片付」とあり、埋立て工事の妨げにならないようにとの気遣いも見られる。続く、27・28の両日は石器の洗浄作業。2日合わせて30袋に近い膨大な数の遺物を洗っている。なかでも28日の項目には、わざわざ「9:30～15:30」と作業時間を記しており、水作業に6時間従事したことのつらさや終わった後の達成感などが伝わってくるようである。

1月31日からは採集活動を再開。途中で洗浄作業を挟みながら、基本的に南東麓を中心として2月12日まで収集を行う。続く2月13日以降には南麓にも移動し、15日には石斧を保管するための柵の製作。遺物の量が増え、軒下(12月15日や1月10日に「軒下置」とある)に収まりきれなくなったのだろう。記録の最終日、17日には歩道の電柱を建てる穴からの出土品を採集したことが記される。

3) 採集記録から見た遺物の内容

上原氏の記録を見ると、石斧の未製品のみでなく、叩石にも注意を払っていることがわかる。採集開始から2日目の12月15日には3個の採集があり、下って、1月25・26の両日には合わせて100個を超える膨大な量の叩石を拾っている。また、手書きの採集資料には、石斧と叩石の双方が丸印で囲まれ、並列して書かれていることから、氏が叩石を石斧と同等の重要遺物に位置づけていたことがわかる。この他、数量は少ないものの滑石製品(記録中では温石)や土器、瓦、石包丁にまで採集が及んでおり、石斧のみに囚われず、非常に広い視野を持って活動を行っていたことがわかる。

なお、全体の採集量は約67袋。個別に記録された遺物としては、石斧約271点、叩石約264点、滑石約7点、土器約19点、瓦1点、石包丁1点、砥石1点である。

一個人の収集品としては膨大な量といえる。

Ⅲ. 主な遺物

1) 資料の概要

上原氏の採集資料は上記の記録に残されたもの以外にも有り、数が非常に多い。また、残りの悪いものや使用および加工痕跡などが見られないものも混入している。したがって、残りの良いものや特徴的なものを抽出し、観察や計測等の作業を行った(表3～11)。この作業結果について、以下に報告する。

当館預かり分の上原氏資料は、総数で454点に上る(第6図)。前段で紹介した記録内容のとおり、石斧未製品と叩石が中心を占め、続いて、打製石斧未製品、石包丁未製品、石鎌、石錘、石剣や石戈の未製品の可能性のあるもの、砥石などがあるが、いずれも石斧・叩石に比べると数は少ない。また、その他の遺物としては、瓦片や土器片、作業台と考えられる石製品、石斧製作時のチップ、判別不明のものなどがある。なお、瓦については、上原氏記録(表2)の「1月25日」の項にある「紋入瓦(藤黒田藩の紋)」は見当たらなかった。失われた可能性が高いと思われる。

以上、資料の概要について述べたが、引き続き、遺物ごとの詳細について見て行きたい。

2) 石斧未製品(表3)

石斧の未製品は、その可能性があるものを含めると237点に上る。まず、採集地点について、不明や確定できないもの53点を除いたものをみると、南東緩斜面～裾にかけての大下F・C・D・Eが計144点、SHが10点で、全体の半分以上を占めていることが分かる(第7図)。既に述べた「上原氏採集記録」の中でもこの地点を中心に活動を行っていることが読み取れることから、採集品と記録とが照合できることがわかった。

つづいて、石斧未製品の内容について見て行きたい。残念ながら、このほとんどが途中で折損しているため全体が分かるものが少ないが、大きく分けると、大型(長さ20cm以上)のいわゆる太形蛤刃石斧、中型の蛤刃石斧(長さ16cm～20cm未満)・小型の蛤刃石斧(長さ16cm未満)、その他薄刃の石斧等がある。折損等が少なく、ほぼ全体が分かるもの61点を抽出し内訳をみると、

大型14点、中型21点、小型14点、薄刃12点となり、中型が最も多いものの、バランスのとれた構成であることがわかる。

石斧の観察にあたっては、製作工程をⅠ－粗割、Ⅱ－打裂、Ⅲ－敲打、Ⅳ－研磨の4段階に分類した。このうち、Ⅰは、大型の母岩や露頭などから割り取った直後に近い段階とした。ただし、従来から指摘のあるとおり、転石などを原石として利用した場合、ⅠとⅡの差は明確でない。したがって、ⅠとⅡのいずれにも区分できないものを便宜上纏めてⅠ～Ⅱとした。また、続くⅡとⅢの工程差についても、明確でない部分がある(折尾1981)。Ⅱの最終段階で側縁部の調整を施すものの中には、細かな打撃を加えた痕跡の残るものがある。この側縁部調整剥離はそのままⅢの敲打作業につながっており、やはり、明確な区分が困難である。したがって、この段階をⅡ～Ⅲ工程とした。そして、敲打が側面部から表・裏両面に及んでいる段階をⅢ、研磨作業が開始された段階をⅣとした。以上に従い工程段階ごとの内訳をみると、総点数237点のうち、Ⅰが20点、Ⅰ～Ⅱが17点、Ⅱが88点、Ⅱ～Ⅲが17点、Ⅲが91点、Ⅳが2点、明瞭な加工痕が見られず、原石段階と考えられるもの2点である(第8図)。今山の過去の調査成果でも報告されているとおり(折尾1981)、Ⅲの敲打段階までの欠損率が非常に高いことが当該表採試料からも読み取れる。

以上、石斧未製品の概要と構成比について見てきたが、引き続き、特徴的な遺物を抽出し紹介したい。

第2図－1(表3－81)は南東斜面に位置する大下F地点で採集された石斧未製品である。表裏両面とも粗い剥離が行われており、全体として亀の甲羅に良く似た形状となっている。工程としてはⅠ段階にあたる。現状で、長さ19.2cm、幅13.2cm、厚さ6.4cm、重さ1.91kgを測るため、製品段階では15～16cm程度の中型蛤刃石斧となると考えられる。

第2図－2(表3－1)も大下Fの採集品である。表裏両面に剥離痕が及び、石斧としての全体的な形態もうかがえる。転石を利用している可能性が高く、工程としてはⅠ～Ⅱの段階にあたる。現状で、長さ22.4cm、幅12.1cm、厚さ8.7cm、重

さ3.41kgを測る。刃部および頭部の形状がほぼ定まっており、製品段階に至ってもサイズはそれほど縮まらないと考えられるため、長さで20cm前後の大型蛤刃石斧を目指していたものと思われる。

第3図-3（表3-169）は今山山頂近くのH地点で採集された。工程としてはⅡの段階に属するが、側縁部に調整剥離が入り、形状が定まっていることから、上記の第2図-2よりも一步進んで敲打の直前の段階にあると考えられる。長さ22.4cm、幅9.5cm、厚さ6.7cm、重さ1.58kgで完成段階では大型石斧となる。

第3図-4（表3-80）は大下Fでの採集品である。縁辺部に調整剥離を施しており、工程としては上記第3図-3とほぼ同じくⅡの最終段階に属する。現状で長さ16.8cm、幅6.1cm、厚さ4.0cm、重さ520gで、仕上がりは長さ14～16cm程度の小型または中型蛤刃石斧になると考えられる。

第3図-5（表3-105）は南西斜面の大下Cで採集された。体部の途中で折れており、刃部付近のみが残る。刃部はきれいな弧を描き、縦断面はやや反る。第3図-3・4と同じくⅡの最終段階と考えられる。形態から小型で薄刃の製品となる可能性がある。現状で長さ7.8cm、幅5.2cm、厚さ2.3cm、重さ140g。

第3図-6（表3-4）は大下Fでの採集品である。表面の中央部付近に敲打痕が見られるものの、他の面には及んでいない。Ⅲ工程の最初の段階と考えられる。刃部が欠けており、このため廃棄された可能性がある。製品は中～小型の蛤刃石斧か。長さ15cm、幅6.4cm、厚さ3.6cm、重さ570g。

第3図-7（表3-36）は大下Fでの採集品である。全体的に風化が激しいため表面観察が困難であるが、部分的に敲打の痕跡が見られる。工程段階はⅢ、長さ17.1cm、幅5.8cm、厚さ4.7cm、重さ510gで、出来上がりは中型の蛤刃石斧と考えられる。

第4図-8（表3-13）は大下F採集である。表から側面にかけて敲打痕が多く見られ、裏面にはあまり施されていない。敲打の途中で折れたものと考えられる。現状で長さ10.6cm、幅7.9cm、厚さ4.4cm、重さ380g。中型の蛤刃石斧となるのか。

第4図-9（表3-234）は、採集地点不明品である。刃部と中央部分のほんの一部を除いて、全面にびっしりと敲打が施されている。Ⅲ工程の最終段階に来ているものと思われる。現状で長さ8.7cm、幅8.2cm、厚さ5.0cm、重さ1kgで、体部の途中で折損するため元々の全長は分らないが、大型の蛤刃石斧になると考えられる。

第4図-10（表3-185）は、折損部分に「茂氏宅前」と採集地点の注記がある。残念ながら現状ではこの地点の照合はできないが、今山の南東～西裾にかけての住宅地の中と考えられる。上原氏採集資料には、工程の研磨段階まで至ったものが2点ある。ここで取り上げた資料はその内の一つである。表面に研磨が施され、側面から裏面にかけては敲打痕がまだ残った状態である。研磨作業の途中で折れたものか。長さ7.6cm、幅6.0cm、厚さ4.3cm、重さ290gで、中型の蛤刃石斧になる可能性がある。

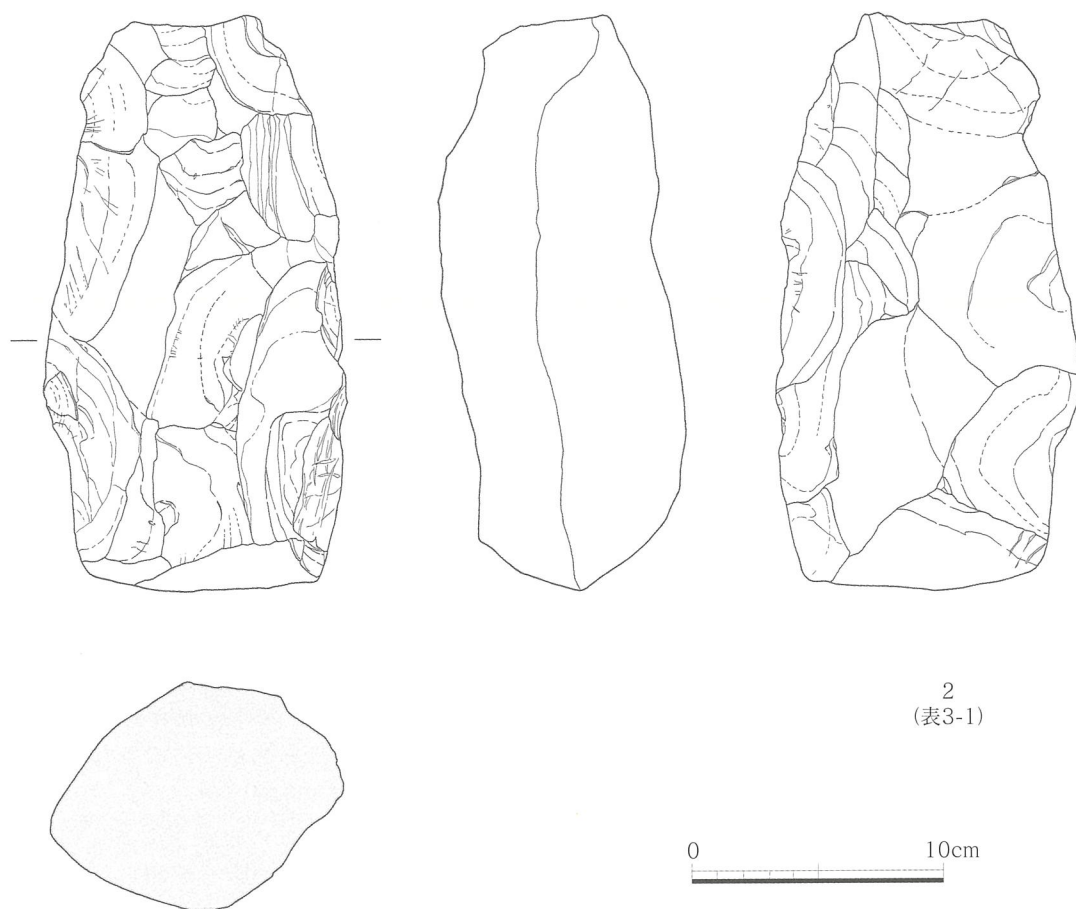
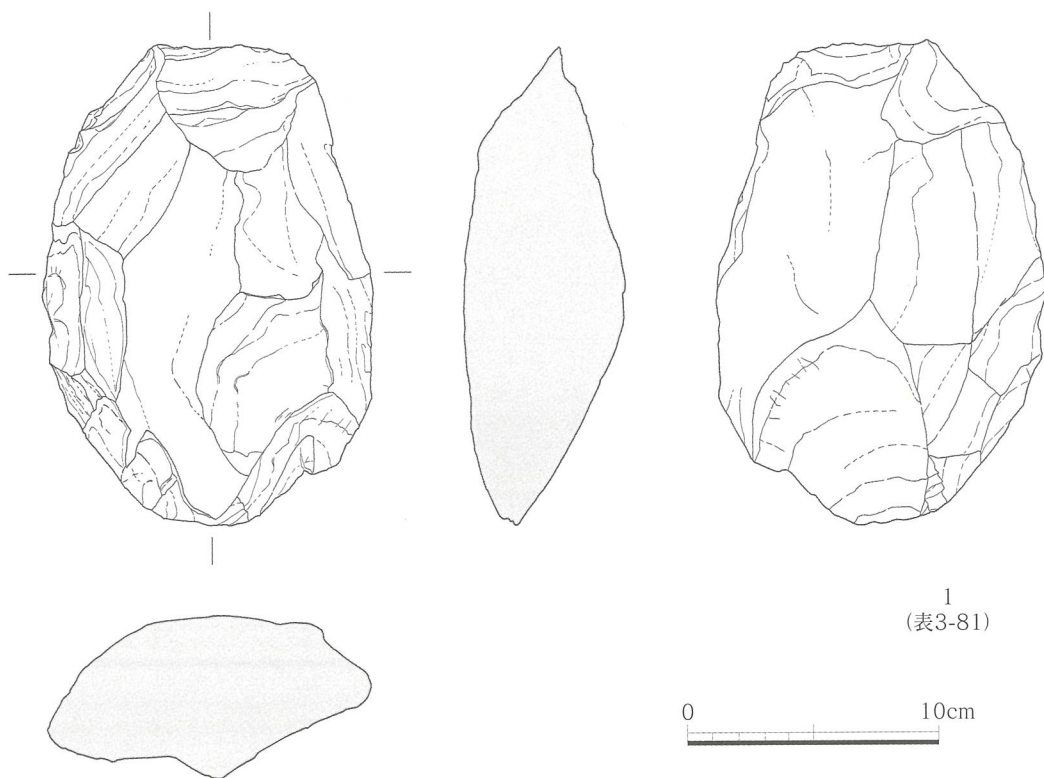
3) 叩石

叩石は総数で174点ほどあり、石斧未製品に次いで多い数となっている（第6図）。主に片麻岩や流紋岩系、玄武岩などを石材として使用し、形態は円形・楕円形・方形・長方形・台形・棒状など様々な種類がある。石のサイズは小さいもので長さ4～5cm、大きいものになると10cmを超えるものがある。また、重さについては、100g程度のものから1kgを超えるものまでである。この形態、大きさ、重量などは、石斧等を作成する各工程段階に対応し、使い分けたものと考えられる。それでは、実物の資料に則して見て行く。

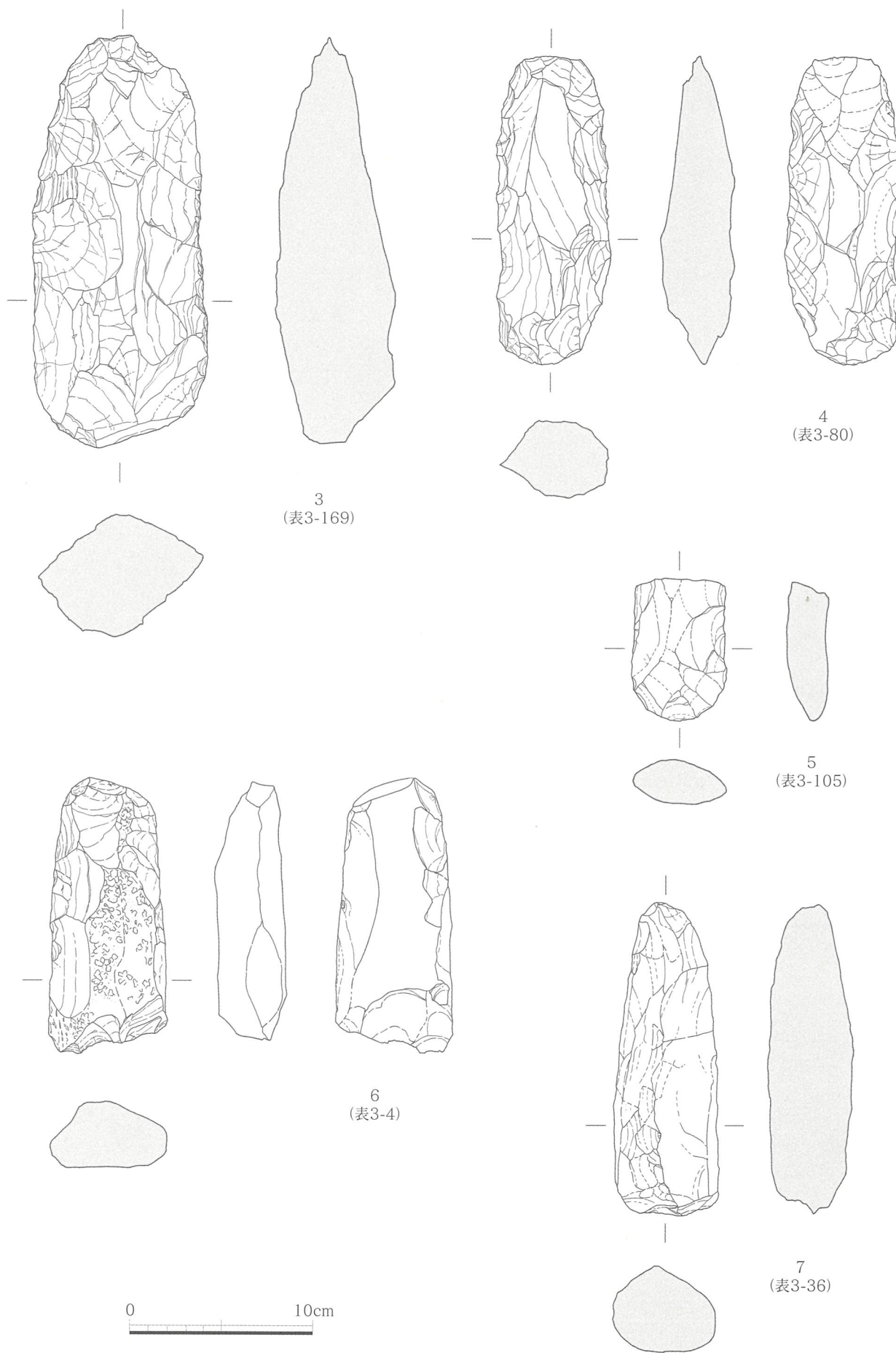
第5図-17（表4-132）は大下FDから出土したと考えられる。握りこぶし大の円礫を利用しており、長さ9.7cm、幅8.3cm、厚さ7.8cmで、重さ980g。大型の叩石で、表面には敲打痕が観察できる。玄武岩製で硬い。

4) 打製石斧未製品

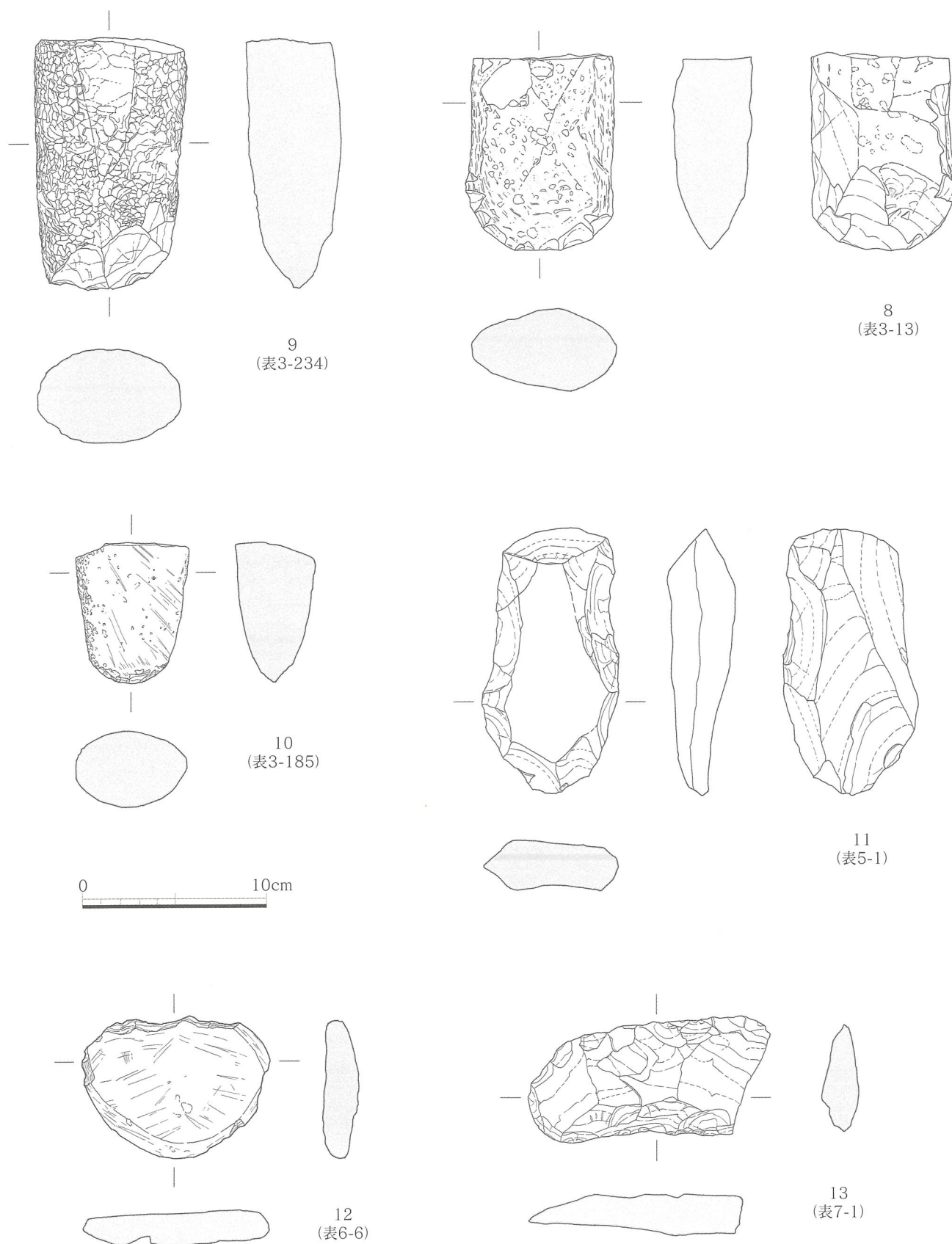
打製石斧は3点ほどある。このうち、採集地点がわかっているものは2点あり、大下FとYKからの出土である。今山産の打製石斧としては、吉留秀敏氏（吉留2005）の論考が知られている。このなかで、出土地点については、今山山頂付近や



第2図 上原氏採集資料1 (石斧未製品) (S=1/3)



第3図 上原氏採集資料2 (石斧未製品) (S=1/3)



第4図 上原氏採集資料3 (石斧・打製石斧・石包丁・石鎌未製品) (S=1/3)

南西部斜面で大量の剥片と共に採集されていることから、生産地の有力候補として、この付近を考えている。また、福岡市教育委員会による第8次調査地点（第1図中－20）においても打製石斧が出土した報告がある。残念ながら、上原氏採集資料の中には山頂部および南西斜面の出土例は無いが、南～南東部裾で出土した点では、第8次調査の傾向と一致する。それでは実際の遺物を見て行く。

第4図－11（表5－1）は下F出土である。頭部が少し折れて失われているが、全体の形状はわかる。平面形態は刃部付近で撥形に広がり、先端はやや尖る。また、縦断面は少し反りを持つ。長さ14.4cm、幅7.3cm、厚さ3.7cm、重さ490g。製品は小型の打製石斧と考えられる。

5) 石包丁未製品

石包丁未製品は可能性のあるものも含めると、8点が確認されている。採集地点は不明のものを除くと、南東斜面の下Fである。石材としてはほとんどが玄武岩だが、中には滑石系の石もある。

第4図－12（表6－6）は、滑石系の薄く平坦な円礫を利用した石包丁未製品と考えられる。一辺を打ち欠き、平面が三角形になるように加工を施している。また、表面から側面にかけては研磨痕も観察できた。裏面が大きく剥落しており、このため廃棄された可能性がある。長さ7.8cm、幅10.2cm、厚さ1.8cm、重さ220g。

6) 石鎌未製品

石鎌未製品は可能性のあるものも含めると8点が出土している。採集地点は、不明のものを除くと、熊野神社参道にあたる「お宮の南側下広場」や下Fから出土しており、これらは今山の南側～南東側斜面にあたる。石材としてはいずれも玄武岩を使用している。

第4図－13（表7－1）は「お宮の南側下広場」での採集品である。全体に剥離が及んでおり側縁部から刃部にかけては調整剥離が施されている。途中で折損しており、このため廃棄された可能性が高い。長さ6.4cm、幅13.1cm、厚さ2.1cm、重さ250g。

7) 石錘

石錘は可能性のあるものを含め4点が採取されている。採集地点不明のものを除くと、下Fの出土である。石材は玄武岩や滑石を使っている。

第5図－14（表8－1）は下Fの採集品である。薄い玄武岩の円礫を利用し、上下左右それぞれの中央4カ所に打ち欠きを入れる。全体に薄い研磨痕が見られ、面を軽く整えたようすがうかがえる。長さ6.0cm、幅7.0cm、厚さ2.3cm、重さ160g。

8) 石戈・石剣

石戈は可能性のあるものを含めると2点、石剣は1点である。いずれも玄武岩製である。

第5図－15（表9－1）は下Cの採集品である。形態から打製石斧の可能性もあるが、張り出し部分が戈の関部に近い曲線を描くことから、ここでは石戈の未製品とした。周縁部に調整剥離を施す段階で折れたようで、茎にあたる部分が失われている。長さ14.3cm、幅10.1cm、厚さ4.2cm、重さ570g。玄武岩製。

第5図－16（表9－3）は下Fの採集品である。厚みは薄く、平面は長方形で、途中で折れる。片面に鐙状の稜線が通ることから石剣の未製品と考えた。長さ9.1cm、幅4.3cm、厚さ1.6cm、重さ100g。玄武岩製。

9) 砥石

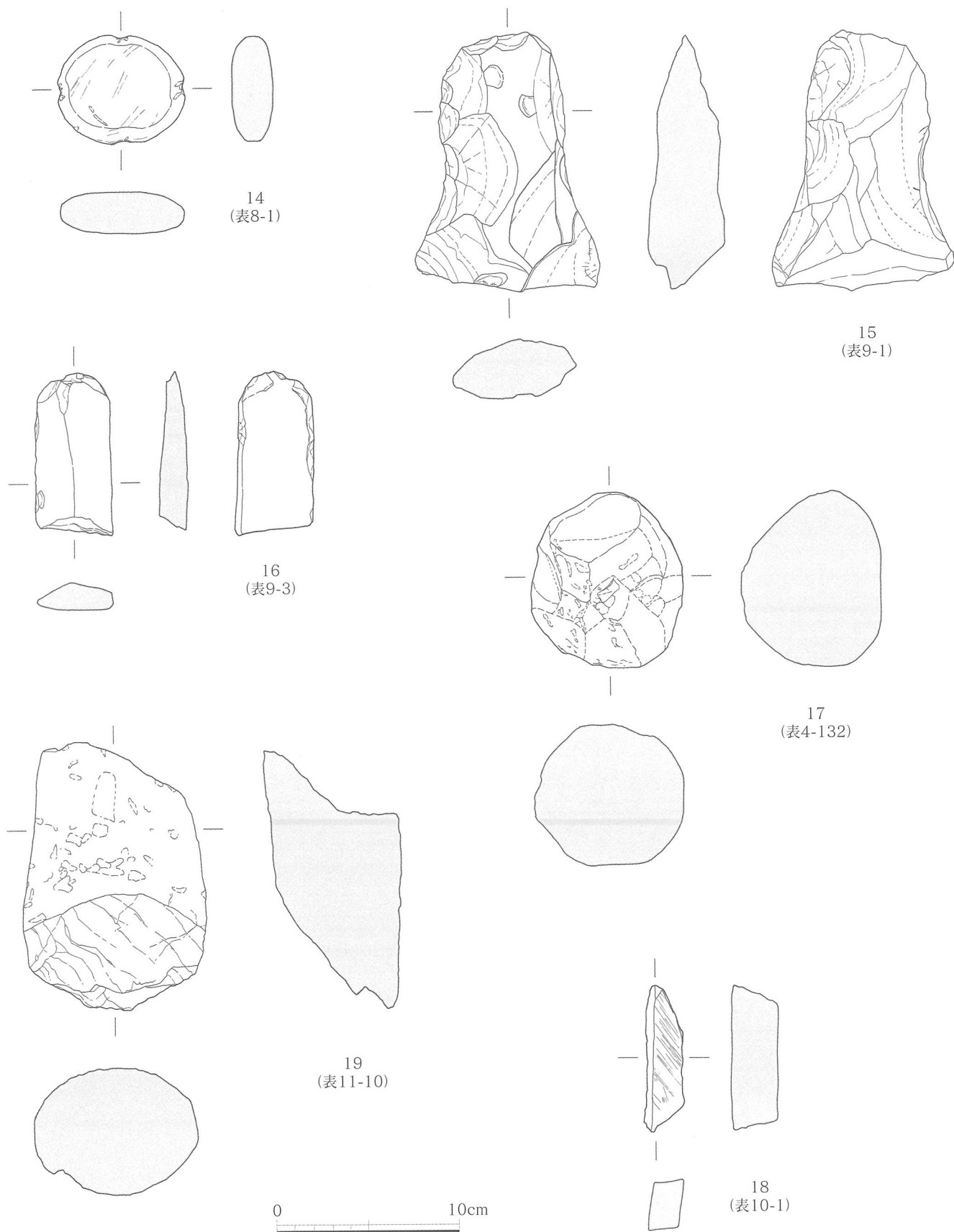
砥石は2点ほどある。いずれも小型品である。

第5図－18（表10－1）は下FCD付近での採集品である。表裏の2面が砥石として使われており、他の面は剥落して失われている。表面には主に斜め方向の研磨痕、裏面には主に縦方向の研磨痕が残る。長さ8.0cm、幅2.1cm、厚さ2.7cm。頁岩製で、粒子は比較的細かく、仕上砥として使われた可能性がある。

10) その他の遺物

以上紹介した遺物のほかに、土器片や瓦片、剥片などがある。（表11）

第5図－19（表11－10）は用途不明の未製品で下Fの採集品である。横断面が楕円形になり全体としては円筒形に近い形になると考えられるが、上下両端部が折損し、失われているため、全



第5図 上原氏採集資料4 (石錘・石戈・石剣・叩石・砥石・用途不明未製品) (S=1/3)

形を知ることができない。滑石系の石を使用して
おり、表面に敲打状の痕跡も確認できる。可能性
としては大型の石錘も考えられる。長さ19.9cm、
幅10.2cm、厚さ7.4cmで、重さは約1.38kg

12) 小結

以上、主な遺物について紹介を行ったが、当該
資料の特徴としては、石斧や砥石など形態による
判別が比較的容易なものを除き、未製品段階での
製品予測が困難なものが多いことが挙げられる。
中でも、叩石については使用痕がはっきりとしな
いものについては一覧表から除外した。その結果、
上原氏の採集記録では石斧と叩石の数量にほとん
ど差はなかった（P23、石斧約271点、叩石約
264点）が、資料一覧（表3、表4）では両遺物
に大きな差がついてしまった（石斧237点、叩石
174点）。

また、基本的に採集品であるため、土器などが
伴わず、正式な時期決定も難しい状態である。

当該資料の利用にあたっては、これらの点を課
題として捉えて行く必要がある。

IV おわりに

上原氏の採集は、単に遺物を拾うのではなく、
日付（時に時間の記述もある）、場所、遺物名、
数量までの細かい記録を残している。また、「収
集→洗浄→整理→保管」という一連の作業も行っ
ており、近代的な調査手法を取り入れたものであ
ったといえる。そして、収集にあたっては、工具
である叩石にも焦点を当てるなど、石斧の生産活
動に関わる遺物を広く収集しようとする姿勢が強
く感じられる。

加えて、氏の採集記録は、昭和50～60年代に
かけての今山遺跡における遺物の分布状況を物語
る資料としても非常に興味が持てる。主なものを
2点ほど上げると、まず1点目は、石器を中心と
した遺物の散布範囲が挙げられる。氏の採集地点
は山頂を含み、山の西側から南東側まで広がるが、
そのほとんどが、南東の裾部に集中する。したが
って、当時は今山の中でもこの付近に分布の中心
があったといえるのではなかろうか。続いて2点
目は、石斧未製品の残存状況がある。採集量全体
から見た石斧未製品の比率は、圧倒的に多いとは

いえない。したがって、採集が行われた昭和50
年代後半～60年代前半の時期には残りが良く、
目立つ石斧は既に持ち去られていたことが想像で
きる。これに関連する出来事としては中山平次郎
博士の記録（中山1931）に「石斧類はこれを見
出すと人夫たちが珍重して皆持ち帰った」という
記述があり、古くから収集の対象となっていたこ
とが一つの要因といえるのかもしれない。

上原氏が自らの手で集めた資料および採集記録
は今山遺跡における一級資料といえ、我々は後世
に伝えていく責務を負わねばならないと思う。

<謝辞>

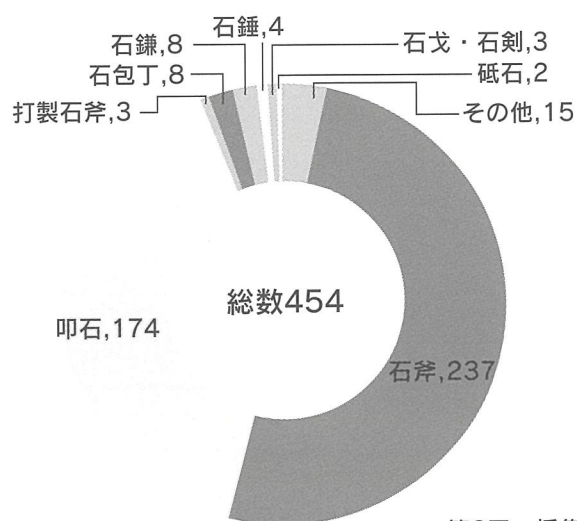
本稿の執筆にあたり、大内士郎氏に上原氏の収
集資料や記録の提供および協力をいただいた。心
から厚く御礼申し上げたい。

（表1 文献）

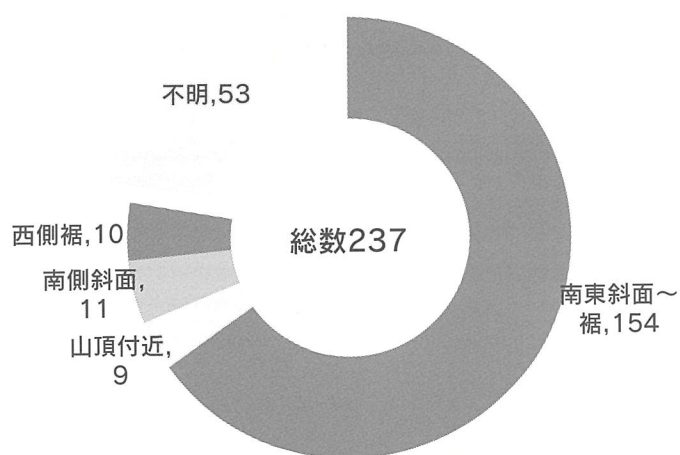
1. 中山平次郎 1931 「今山の石斧製造址」『史跡名勝天
然記念物調査報告書 第6輯（史蹟の部）』（福岡県）
2. 下條信行 1968 『今山遺跡（1）』福岡市埋蔵文化財調
査報告書第22集（福岡市教育委員会）
3. 折尾学 1981 『今山・今宿遺跡』福岡市埋蔵文化財調
査報告書第75集（福岡市教育委員会）
4. 福岡市教育委員会『今山遺跡確認調査図版』（発刊年
等不明）
5. 米倉秀紀 1998 『今山遺跡 第7次調査の報告』福岡市
埋蔵文化財調査報告書第584集（福岡市教育委員会）
6. 米倉秀紀 2005 『今山遺跡 第8次調査』福岡市埋蔵文
化財調査報告書第835集（福岡市教育委員会）

（参考文献）

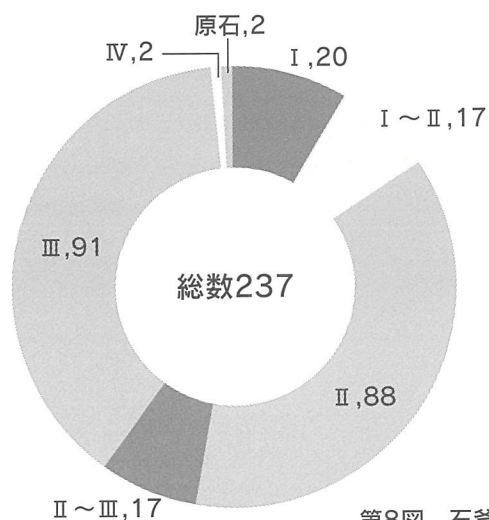
- 浜田昌治 1979 「今山遺跡第5、6地点発掘を終えて」『福
岡考古懇話会々報』第10号（福岡考古談話会）
- 柳田純孝 1985 「考古学講座資料 昭和59年度の発掘調査
から」
- 吉留秀敏 1993 「縄文時代後期から晩期の石器技術総体
の変化とその評価―早良平野を中心に」『古文化談叢』第30集
（上）
- 大内士郎 1994 「今宿・今山遺跡及び周辺遺跡の表採資料」
『今宿遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第389集（福岡市
教育委員会）
- 山口譲治 1995 「北部九州の大陸系磨製石斧」『考古学ジャ
ーナル』391
- 吉留秀敏 2005 「今山産玄武岩の利用とその変遷」『石器原
産地研究会第7回研究会集会発表資料』



第6図 採集遺物の内訳



第7図 石斧未製品の出土地点の内訳



第8図 石斧未製品の工程内訳

表3

採集資料一覧 1 (石斧)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	石斧	大下F	22.4	12.1	8.7	3.41	完存	I～II	—	2図-2	
2	石斧	大下F	16.1	9	5.2	1.02	頭部～体部	II	—		
3	石斧	大下F	18.5	9.5	6.8	1.2	体部～刃部	II	—		
4	石斧	大下F	15	6.4	3.6	0.57	頭部～体部	II	—	3図-6	
5	石斧	大下F	15.6	11	4.7	1.14	頭部～体部?	I	—		
6	石斧	大下F	7.5	8.6	4.3	0.37	刃部	III	—		
7	石斧	大下F	15.6	7.4	4.7	0.73	頭部～刃部	II	—		
8	石斧	大下F	12.4	7.3	3.9	0.49	頭部～体部	II	—		
9	石斧	大下F	12.7	7.8	3.4	0.49	体部～刃部	II	—		裏面が ¹ 大きく剥離
10	石斧	大下F	10.7	6.8	4.2	0.48	頭部～体部	II	—		
11	石斧	大下F	9	8.6	4.8	0.44	頭部	II	—		
12	石斧	大下F	7.6	6.8	3.4	0.23	刃部	III	—		
13	石斧	大下F	10.6	7.9	4.4	0.38	刃部	III	—	4図-8	
14	石斧	大下F	23.1	9.9	5.7	1.63	完存	II	—		裏面が ¹ 大きく剥離
15	石斧	大下F	20	11	8.2	2.14	完存	I	—		
16	石斧?	大下F	7.3	5.7	4.3	0.24	頭部	III	—		屈曲、石鎌の先端か?
17	石斧	大下F	5.8	7.4	2.1	0.14	頭部	III	—		
18	石斧	大下F	8.1	6.7	4.3	0.33	体部	III	—		
19	石斧	大下F	11	8.3	4.3	0.53	頭部～体部	II	—		
20	石斧	大下F	21.5	11	5.4	1.71	完存	II	—		
21	石斧	大下F	13.4	8.7	6.3	1.18	体部～刃部	II	—		
22	石斧	大下F	16.5	8.6	6.5	1.5	体部～刃部	III	—		
23	石斧	大下F	10.4	7.7	4.5	0.62	体部～刃部	III	—		表面から両側面にかけて敲打
24	石斧	大下F	9.5	7.4	3.8	0.37	頭部～体部	II	—		
25	石斧	大下F	13.7	8	5.1	0.67	完存	II	—		
26	石斧	大下F	17.4	8.6	4.3	0.85	完存	II	—		
27	石斧	大下F	7.8	7.9	4	0.5	体部	III	—		両側面を敲打。表裏面の敲打痕少ない
28	石斧	大下F	8.6	5.8	2.3	0.18	体部～刃部	II	—		
29	石斧	大下F	14.7	6.8	4.3	0.7	頭部～体部	III	—		表面敲打。側面敲打少ない。裏面敲打なし
30	石斧	大下F	12.4	7	4.9	0.71	体部～刃部	III	—		側面に敲打痕若干あり
31	石斧	大下F	12.8	8.4	6.8	1.1	頭部～体部	III	—		側面に敲打痕あり
32	石斧	大下F	13.1	8.9	6.2	0.95	頭部～体部	II	—		
33	石斧	大下F	15.3	8.8	4.3	0.85	頭部～体部	III	—		表面敲打。側面敲打少ない。裏面敲打なし。頭部が ¹ 平坦で長方形の平面形態を呈し、身が ¹ 薄い
34	石斧	大下F	17.8	12.4	5.8	1.52	完存	I	—		
35	石斧	大下F	12.7	9.8	4.8	0.81	体部～刃部	II	—		
36	石斧	大下F	17.1	5.8	4.7	0.51	完存	III	—	3図-7	若干の敲打痕あり。中型
37	石斧	大下F	32	8.1	4.4	1.86	完存	—	—		自然の転石か?
38	石斧	大下F	18.7	8.9	5.9	1.38	頭部～体部	III	—		表面のみ敲打痕若干あり。両側面から裏面にかけては敲打なし
39	石斧	大下F	8.5	8.5	5	0.44	刃部	III	—		表面のみ敲打痕あり。両側面から裏面にかけては敲打なし
40	石斧	大下F	21.6	10.2	7	1.96	完存	I～II	—		裏面に大きな抉れ有り
41	石斧	大下F	16.5	8.7	6.6	1.34	体部	III	—		一側面から表裏両面へ向かって敲打。表裏両面の半分程度まで敲打痕が残る
42	石斧	大下F	11.6	8.9	6.2	0.98	体部～刃部	III	—		一側面に敲打痕残る
43	石斧	大下F	14.4	9.8	6.5	1.24	体部～刃部	II	○		裏面の一部に自然面残る
44	石斧	大下F	12.5	7.4	5.7	0.9	頭部～体部	III	—		全面に敲打痕残る
45	石斧	大下F	10.9	8.8	4.7	0.67	体部	I	—		
46	石斧	大下F	9.5	7.7	4.8	0.62	体部～刃部	III	—		両側面に敲打痕若干あり
47	石斧	大下F	6.9	8.4	4.1	0.34	刃部	II	—		
48	石斧	大下F	15.4	7.6	2.9	0.55	ほぼ完存	II	—		
49	石斧	大下F	10.6	7.2	2.2	0.27	頭部	II	—		剥片か?
50	石斧	大下F	22.2	9.9	7.6	1.96	完存	II	—		
51	石斧	大下F	17.5	12.5	5.7	1.27	完存	I	—		
52	石斧	大下F	14.8	9.2	7.8	1.64	頭部～体部	III	—		両側面敲打
53	石斧	大下F	12.9	9.3	6.7	1.31	頭部～体部	III	—		一側面敲打
54	石斧	大下F	13.4	7.8	4	0.67	頭部～体部	II	—		
55	石斧	大下F	9.2	7.5	3.5	0.41	頭部～体部	II	—		
56	石斧	大下F	10.1	8.3	4.6	0.7	頭部～体部	II	—		やや屈曲する
57	石斧	大下F	17.6	10.4	5.4	1.39	体部	I～II	—		
58	石斧	大下F	11.2	6.5	5	0.56	頭部～体部	II	—		
59	石斧	大下F	14.6	8.1	5.3	0.7	体部～刃部	II	—		扁平
60	石斧	大下F	16.5	9.7	6.3	1.51	頭部～体部	II	—		

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
61	石斧	大下F	18.6	8.7	6.9	1.42	体部～刃部	Ⅱ	—		
62	石斧	大下F	11	7.1	4.7	0.56	体部～刃部	Ⅲ	—		裏面の一部を除いてほぼ全面に敲打痕あり
63	石斧	大下F	10.4	7.1	4.6	0.52	体部～刃部	Ⅱ	—		
64	石斧	大下F	6.4	7.4	4	0.25	頭部	Ⅲ	—		
65	石斧	大下F	8.1	7.1	4.3	0.34	刃部	Ⅲ	—		表裏面に敲打痕有るが、側面にはほとんど見られない
66	石斧	大下F	8.8	7.7	4.9	0.52	刃部	Ⅱ	—		
67	石斧	大下F	7.4	6.7	4.8	0.39	頭部	Ⅲ	—		全面に敲打痕あり
68	石斧	大下F	18.4	7.6	4.7	0.9	完存	Ⅱ	—		
69	石斧	大下F	11.8	7.3	4.9	0.7	体部～刃部	Ⅲ	—		全面に敲打痕あり
70	石斧	大下F	10.8	6.9	4.9	0.64	体部～刃部	Ⅲ	—		裏面の中央一部を除き、表面から両側面にかけて敲打痕あり
71	石斧	大下F	8.1	5.4	3.1	0.21	体部～刃部	Ⅲ	—		
72	石斧	大下F	7.9	6.7	3.3	0.23	体部～刃部	Ⅲ	—		
73	石斧	大下F	11.3	6.3	3.5	0.41	体部～刃部	Ⅱ～Ⅲ	—		平面形態が長方形で扁平
74	石斧	大下F	17.4	8.1	7.3	1.46	体部～刃部？	Ⅲ	—		一側面に敲打痕顕著にあり
75	石斧	大下F	9.1	8.1	5.9	0.73	体部	Ⅲ	—		表面に敲打痕有り。両側面から裏面にかけては少ない
76	石斧	大下F	10.9	9.3	4.5	0.7	体部～刃部	Ⅲ	—		表裏両面に敲打痕。側面は少ない
77	石斧	大下F	8.6	8	4.7	0.48	頭部	Ⅲ	—		表面に敲打痕有り。両側面から裏面にかけては少ない。頭部は平坦に作り出し、方形に近い平面形態
78	石斧	大下F	7.5	7.9	4.3	0.49	頭部	Ⅲ	—		一側面に敲打痕あり
79	石斧	大下F	4.5	8.6	5.2	0.41	体部	Ⅲ	—		一側面を除き、3面に敲打痕あり
80	石斧	大下F	16.8	6.1	4	0.52	完存	Ⅱ	—	3図-4	体部がやや湾曲する
81	石斧	大下F	19.2	13.2	6.4	1.91	完存	I	—	2図-1	
82	石斧	大下F	11.7	7.7	3.2	0.45	頭部？～体部	I	—		
83	石斧？	大下F	37.2	8.3	7.9	3.22	完存	—	○		片岩系の原石か。「※3.26 猛上畑」の注記有り
84	石斧	大下F？	13.6	7.5	5.3	0.85	頭部～体部	Ⅱ	—		
85	石斧	大下F？	9.2	4.9	2.9	0.26	頭部～体部	Ⅲ	—		
86	石斧	大下C	13.8	8.6	5.3	0.72	体部～刃部	Ⅱ	—		
87	石斧	大下C	14.9	8.3	3.5	0.59	体部	Ⅱ	—		
88	石斧	大下C	19.7	10	6.5	1.24	体部～刃部	I～Ⅱ	—		
89	石斧	大下C	17.3	9.1	5.5	1.12	完存	Ⅱ	—		
90	石斧	大下C	12.9	8.7	7.1	1.32	体部～刃部	Ⅱ	—		
91	石斧	大下C	12	7.8	5.4	0.5	頭部～体部	Ⅱ	—		頭部を平坦に作り出す。平面が長方形形状
92	石斧	大下C	13.9	6.9	3.6	0.49	体部～刃部？	Ⅱ	—		
93	石斧	大下C	18.1	8.6	4.6	1.06	完存	Ⅱ	—		
94	石斧	大下C	15.3	7.4	5.3	0.92	完存	I	○		打裂の痕跡少ない。転石か？
95	石斧	大下C	15.7	8.1	5.6	0.88	完存	I～Ⅱ	—		D字形に一側面が湾曲する
96	石斧	大下C	14.7	7.4	3.7	0.62	ほぼ完存（頭部の一部欠失）	Ⅱ	—		小型扁平
97	石斧	大下C	11.3	8.1	4.3	0.63	体部	Ⅱ	—		裏面大きく剥離。表面の中央一部に敲打痕あり
98	石斧	大下C	12.2	5.9	3.1	0.3	完存	I～Ⅱ	—		小型扁平
99	石斧	大下C	9.5	7.4	3.9	0.42	頭部～体部	Ⅱ	—		頭部を平坦に作り出す。平面が長方形形状
100	石斧	大下C	12.1	6.4	4.7	0.55	体部～刃部	Ⅲ	—		両側面の敲打痕が顕著
101	石斧	大下C	13.7	7.3	5.8	0.99	頭部～体部	Ⅲ	—		全面敲打
102	石斧	大下C	16.7	8.1	6.3	1.34	体部～刃部	Ⅲ	—		両側面の敲打痕が顕著
103	石斧	大下C	13.8	7.4	5.7	0.91	頭部？～体部	Ⅲ	—		ほぼ全面に敲打痕あり
104	石斧	大下C	11.1	7.5	5.2	0.63	頭部～体部	Ⅲ	—		表面から両側面にかけて敲打
105	石斧	大下C	7.8	5.2	2.3	0.14	体部～刃部	Ⅱ	—	3図-5	小型扁平。刃部を円く作り出す
106	石斧	大下C	12.7	7.2	6	0.82	体部～刃部	Ⅲ	—		一側面に若干の敲打痕あり
107	石斧	大下C	12.3	8.5	4.7	0.61	頭部？～体部	Ⅱ	—		
108	石斧	大下C	10.6	8.2	5.6	0.76	頭部？～体部	Ⅲ	—		一側面から表裏両面に向って敲打

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
109	石斧	大下C	11.3	6.2	4.6	0.52	頭部～体部	Ⅲ	—		両側面から表裏面に向 って敲打途中
110	石斧	大下C	8.3	9	4.7	0.6	体部	Ⅱ～Ⅲ	—		敲打痕がわずかに見ら れる
111	石斧	大下C	5.7	6.5	3.3	0.21	刃部	Ⅱ～Ⅲ	—		敲打痕がわずかに見ら れる
112	石斧	大下C	12.1	8	5.3	0.64	頭部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		両側面に若干の敲打痕 あり
113	石斧	大下C	13.9	8	3.9	0.66	完存	Ⅱ	—		小型
114	石斧	大下C	10.1	7.8	4.3	0.49	体部～刃部	Ⅲ	—		刃部を丁寧に作り出す。 表面から両側面に向っ て敲打痕あり
115	石斧	大下C	8.9	6.5	4.9	0.43	体部	Ⅲ	—		上下両端および一側面 方向が大きく欠損
116	石斧	大下C	11	6.9	3.6	0.39	頭部～体部	Ⅱ	—		
117	石斧	大下D	15.3	7.2	7.2	1.21	体部～刃部	Ⅲ	—		両側面から表裏両面 に向って敲打
118	石斧	大下D	7.8	6.6	5.6	0.46	頭部	Ⅲ	—		頭部を平坦に作り出す
119	石斧	大下D	11.4	8.4	5.1	0.67	頭部～体部	Ⅲ	—		表裏両面中央の平坦部 に敲打痕あり
120	石斧	大下D	9.6	7.3	5.7	0.53	頭部～体部	Ⅲ	—		表面に敲打痕あり
121	石斧	大下D	9.2	6.5	4.9	0.46	体部～刃部	Ⅲ	—		表面に敲打痕、裏面に 剥離痕あり
122	石斧	大下D	17	7.5	4.6	0.83	体部～刃部	Ⅱ	—		
123	石斧	大下D	16.1	6.6	2.5	0.36	完存	Ⅱ	—		
124	石斧	大下D	8.2	5.1	3.7	0.26	体部～刃部	Ⅲ	—		両側面に敲打痕あり
125	石斧	大下D	15.9	9.4	5.5	1.18	完存	Ⅰ	—		
126	石斧	大下D	10.8	7.4	4.3	0.62	体部	Ⅲ	—		ほぼ全面に敲打痕あり
127	石斧	大下D	12.9	7.5	6.2	0.83	体部～刃部	Ⅲ	—		ほぼ全面に敲打痕あり
128	石斧	大下D	18.2	8	5.1	1.14	完存	Ⅱ	—		
129	石斧	大下C/D	14.6	9.2	3.6	0.73	完存	Ⅰ	—		薄いか両面に調整の痕 跡あり
130	石斧	大下C/D	13.2	11.3	4.6	0.79	完存	Ⅰ	—		小型石斧の打製段階か ？小型
131	石斧	大下C/D	13.6	8.2	5.6	1.01	体部～刃部	Ⅲ	—		全面に敲打を施す
132	石斧	大下C/D	12.6	7.9	5.3	0.61	体部～刃部？	Ⅲ	—		側面に若干の敲打痕あり
133	石斧	大下C/D	11.4	7.9	3.6	0.5	体部～刃部	Ⅱ	—		側面～刃部にかけて敲 打痕あり。薄い
134	石斧	大下C/D	17.1	11.1	6.4	1.51	完存	Ⅰ	—		
135	石斧	大下C/D	18.2	9.1	7.2	1.73	体部～刃部	Ⅲ	—		一側面に敲打痕あり
136	石斧	大下C/D	17.5	10.6	6.5	1.29	完存	Ⅰ	—		
137	石斧	大下C/D	12.5	9.9	5.1	0.74	完存	Ⅰ	—		
138	石斧	大下C/D	11.1	6.5	4.1	0.52	体部～刃部	Ⅲ	—		粗磨きの可能性あり。 刃部の一部が欠けてい るため、使用した可能 性ありか？
139	石斧	大下C/D	8.9	8.2	5.3	0.52	刃部	Ⅲ	—		一側面を除き、3面に 敲打痕あり
140	石斧	大下C/D	11.3	8.6	5.7	0.72	体部～刃部	Ⅲ	—		池の注記（池松か？） 表裏面に敲打痕あり
141	石斧	大下C/D	11.8	7.2	5.1	0.56	体部～刃部	Ⅲ	—		若干の敲打痕あり
142	石斧	大下C/D	7.7	7.1	3.5	0.28	頭部	Ⅱ	—		裏面大きく剥離
143	石斧	大下C/D	8	7.5	4.6	0.43	刃部	Ⅲ	—		表面に敲打痕あり。裏 面は剥離か？
144	石斧	大下E	10.9	6.2	2.8	0.3	頭部～体部	Ⅱ	—		
145	石斧	SH	10.9	6.7	3.6	0.42	頭部～体部	Ⅱ	—		
146	石斧	SH	9.4	5.9	3.2	0.22	頭部～体部	Ⅱ	—		
147	石斧	SH	15	8.7	6.1	1.16	刃部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
148	石斧	SH	13.3	8.6	6.8	1.04	頭部～体部	Ⅱ	—		
149	石斧	SH	12.7	8	4.6	0.58	刃部～体部	Ⅱ	—		
150	石斧	SH	10.7	7.3	2.7	0.42	刃部～体部	Ⅲ	—		
151	石斧	SH	9.7	7.4	4.6	0.48	頭部～体部	Ⅲ	—		
152	石斧	SH	13.6	8.2	4.6	0.62	体部	Ⅱ	—		
153	石斧	SH	10.2	6.3	3.9	0.32	刃部～体部	Ⅲ	—		
154	石斧	SH	13.7	8.8	4.1	0.58	刃部～体部	Ⅱ	—		
155	石斧	K	18.6	7.3	4.7	0.81	完存	Ⅱ	—		
156	石斧	K	20.7	9.4	4.5	1.28	完存	Ⅱ	—		薄い
157	石斧	K	15.8	10	4.9	1.13	完存	Ⅰ	—		
158	石斧	K	15.2	6	6.3	0.97	体部～刃部	Ⅱ～Ⅲ	—		敲打状の痕跡が薄らと 観察できる。柱状
159	石斧	K	12.3	8.2	5.5	0.8	体部～刃部	Ⅲ	—		若干の敲打痕あり
160	石斧	K	18.8	7.2	3.7	0.65	完存	Ⅰ	—		表裏両面とも剥離。剥 片の可能性大
161	石斧	K	12.5	8.6	3.4	0.62	体部～刃部	Ⅱ	—		薄い

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
162	石斧	BA	10.5	9.3	5.4	0.57	刃部?	Ⅱ	—		
163	石斧	BA	20.2	11.4	5.6	1.42	完存	Ⅰ	—		
164	石斧	BA	18.2	16.5	6	2.1	完存	Ⅰ	○		
165	石斧	YK	13	7.3	4.4	0.77	頭部～体部	Ⅲ	—		
166	石斧	YK	12.2	8.2	5.6	0.78	頭部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
167	石斧	YK	15.2	8.3	5.8	1.28	完存	Ⅱ～Ⅲ	—		
168	石斧	H	22.9	9.2	5.1	1.44	完存	Ⅱ	—		169と同じ調整段階。 大きさ、形態も似る
169	石斧	H	22.4	9.5	6.7	1.58	完存	Ⅱ	○	3図-3	刃部の一部に原礫面
170	石斧	A	10.6	9.1	3.9	0.53	刃部	Ⅲ	—		裏面大きく剥離
171	石斧	A	16.8	7.2	4.9	0.81	完存	Ⅱ～Ⅲ	—		表裏両面大きく剥離
172	石斧	A	14.9	8.8	5.7	1.13	頭部?～体部	Ⅱ	—		
173	石斧	A	8.9	6.3	4.4	0.32	体部～刃部	Ⅱ	—		
174	石斧	A	20.7	8.5	3.3	0.67	体部	Ⅲ	—		裏面大きく剥離。側面 敲打中に剥離か。
175	石斧	KO	12.5	8	7	0.95	刃部～体部	Ⅲ	—		
176	石斧	KO	16.9	11	7.2	1.71	刃部～体部	Ⅰ～Ⅱ	—		
177	石斧	KO	20.8	9.2	6.9	1.85	ほぼ完存	Ⅱ～Ⅲ	—		
178	石斧	HA	18.6	15.4	6.9	1.72	完存	Ⅰ	—		
179	石斧	HA	24.7	11.2	7.5	2.84	完存	Ⅱ	—		
180	石斧	HA	19.3	8.4	6	1.45	完存	Ⅱ	—		
181	石斧	HA	16.3	9.7	6.7	1.47	ほぼ完存	Ⅱ～Ⅲ	—		
182	石斧	HA	20.8	11.8	5.6	1.8	刃部～体部	Ⅱ	—		
183	石斧	HA	22	8.8	6.1	1.45	ほぼ完存	Ⅱ	—		
184	石斧	HA	6.3	6.6	4.6	0.27	頭部	Ⅲ	—		
185	石斧	茂氏宅前 (特定できず)	7.6	6	4.3	0.29	刃部	Ⅳ		4図-10	茂氏宅前と注記あり。 研磨の途中に折損か?
186	石斧	不明	13.7	8.2	5.4	0.87	完存	Ⅰ～Ⅱ	—		
187	石斧	不明	14.8	8	5.5	1.03	刃部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
188	石斧	不明	17.5	8.5	5.2	0.84	完存	Ⅰ～Ⅱ	—		
189	石斧	不明	14	8.6	4	0.76	完存	Ⅰ	—		
190	石斧	不明	14.5	8.2	4.5	0.82	刃部～体部	Ⅱ	—		
191	石斧	不明	17.6	10.7	6.3	1.73	頭部～体部	Ⅱ	—		
192	石斧	不明	14	10.6	5.6	1.55	ほぼ完存	Ⅱ	—		
193	石斧	不明	11.8	9.5	5.3	0.92	刃部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
194	石斧	不明	16.9	7	4.6	0.8	完存	Ⅲ	—		
195	石斧	不明	9.3	7.7	2.3	0.26	体部	Ⅱ	—		
196	石斧	不明	15.4	10.8	5.8	1.14	完存	Ⅰ～Ⅱ	—		
197	石斧	不明	22.5	7.5	5.5	1.08	完存	Ⅱ	—		
198	石斧	不明	7	6.3	2.1	0.14	刃部～体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
199	石斧	不明	15.7	10.3	4.4	1.02	体部	Ⅰ～Ⅱ	—		
200	石斧	不明	12.2	7.8	5.7	0.81	頭部～体部	Ⅲ	—		
201	石斧	不明	11.4	9	3.5	0.47	刃部	Ⅲ	—		
202	石斧	不明	15.3	8.8	3.5	0.61	完存	Ⅱ	—		
203	石斧	不明	12	8	4.9	0.7	刃部～体部	Ⅲ	—		
204	石斧	不明	16	10.2	3.4	0.78	完存	Ⅰ～Ⅱ	○		
205	石斧	不明	11.5	7.6	3.7	0.46	刃部～体部	Ⅱ	—		
206	石斧	不明	9.6	7.3	2.6	0.28	刃部	Ⅱ	—		
207	石斧	不明	9.4	7.3	4.2	0.49	頭部	Ⅲ	—		
208	石斧	不明	18.3	8.5	5.7	1.32	完存	Ⅱ	—		
209	石斧	不明	10.3	7	4.6	0.54	刃部	Ⅲ	—		
210	石斧	不明	18	7.8	3.5	0.8	完存	Ⅰ～Ⅱ	○		
211	石斧	不明	8.7	7	2.4	0.26	体部	Ⅱ	—		
212	石斧	不明	21.5	8	6	1.5	ほぼ完存	Ⅱ	—		
213	石斧	不明	22	9.5	4.4	1.28	ほぼ完存	Ⅱ	—		
214	石斧	不明	13.5	7	4	0.59	完存	Ⅱ～Ⅲ	—		小型石斧
215	石斧	不明	12.7	7.3	5.2	0.64	刃部～体部	Ⅲ	—		
216	石斧	不明	24	6.1	2.9	0.66	完存	Ⅱ	—		
217	石斧	不明	10.6	5	3	0.23	完存	Ⅱ	—		小型の扁平片刃石斧
218	石斧	不明	16.5	11	4.1	1.69	ほぼ完存	Ⅰ～Ⅱ	—		
219	石斧	不明	15.3	3.5	2.8	0.28	完存	Ⅲ	—		小型の棒状の石斧か
220	石斧	不明	13	7.2	4.3	0.5	体部	Ⅱ～Ⅲ	—		
221	石斧	不明	15.2	7	3.6	0.37	完存	Ⅱ	—		
222	石斧	不明	10.2	8.5	4.5	0.59	頭部	Ⅲ	—		
223	石斧	不明	9.7	7.7	4.7	0.5	体部	Ⅲ	—		
224	石斧	不明	20.5	8	6.6	1.82	完存	Ⅲ	—		
225	石斧	不明	18.5	11	5.5	1.31	ほぼ完存	Ⅰ～Ⅱ	—		
226	石斧	不明	20	9	5.1	1.3	完存	Ⅱ～Ⅲ	—		
227	石斧	不明	16	7	5.2	0.79	完存	Ⅲ	—		
228	石斧	不明	10.8	7	4	0.47	刃部～体部	Ⅲ	—		
229	石斧	不明	13	8.5	5.6	0.82	頭部～体部	Ⅲ	—		
230	石斧	不明	13.3	8	4.4	0.73	頭部～体部	Ⅲ	—		
231	石斧	不明	10.3	8.4	5.5	0.68	頭部～体部	Ⅲ	—		
232	石斧	不明	12.8	7.1	4.7	0.78	刃部～体部	Ⅳ	—		研磨の途中

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
233	石斧	不明	13	7.4	6.3	0.92	刃部～体部	Ⅲ	—		
234	石斧	不明	8.7	8.2	5	1	刃部～体部	Ⅲ	—	4図-9	
235	石斧?	不明	9.8	7	3.6	0.34	体部	I～II	—		
236	石斧?	不明	10.6	8.6	5.7	0.6	完存	I～II	—		小型石斧か
237	石斧?	不明	11.5	8.2	4.7	0.59	完存	Ⅲ	—		

※表の備考に石材の記載がない石器は玄武岩製

表4

採集資料一覧 2 (叩石)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	叩石	大下F	6.4	5.7	3.7	0.26	完存	—	—		片岩系か。方形
2	叩石	大下F	10	8.8	6.9	0.9	完存	—	—		片岩系か。円形
3	叩石	大下F	6.1	5.6	3.6	0.2	完存	—	—		片岩系か。円形
4	叩石	大下F	6.8	5.5	5.2	0.35	完存	—	—		片岩系か。方形
5	叩石	大下F	6.3	5.9	4.7	0.27	完存	—	—		片岩系か。円形
6	叩石	大下F	5.8	3.8	3	0.1	完存	—	—		玄武岩。楕円形
7	叩石	大下F	8.6	6.6	3.6	0.29	約2分の1	—	—		片岩系か。楕円形
8	叩石	大下F	6.2	6.2	3.7	0.22	約2分の1	—	—		流紋岩系。台形
9	叩石	大下F	5.5	5	4.1	0.2	完存	—	—		片岩系か。方形
10	叩石	大下F	6.8	5.5	5.3	0.34	完存	—	—		片岩系か。台形
11	叩石	大下F	6.4	5.7	5	0.3	完存	—	—		片岩系か。円形
12	叩石	大下F	8.1	6.8	2.7	0.25	約3分の1	—	—		片岩系か。楕円形
13	叩石	大下F	9.1	6.7	3.7	0.32	完存	—	—		片岩系か。三角形
14	叩石	大下F	6.6	5.6	2.5	0.13	約3分の1	—	—		流紋岩系。円形
15	叩石	大下F	6.7	6.6	2.7	0.16	約3分の1	—	—		流紋岩系。円形
16	叩石	大下F	7.3	5.6	3.7	0.22	約2分の1	—	—		片岩系か。三角形
17	叩石	大下F	6	4.7	5.1	0.23	完存	—	—		片岩系か。方形
18	叩石	大下F	8.7	8	3.8	0.47	完存	—	—		片岩系か。円形
19	叩石	大下F	6.6	4.5	3.8	0.18	完存	—	—		片岩系か。楕円形
20	叩石	大下F	6.1	5.4	3.3	0.2	完存	—	—		片岩系か。円形
21	叩石	大下F	7.2	6.8	5.3	0.37	完存	—	—		片岩系か。円形
22	叩石	大下F	7.4	6.6	4.3	0.26	約2分の1	—	—		片岩系か。円形
23	叩石	大下F	6.7	5.8	3.4	0.23	完存	—	—		片岩系か。楕円形
24	叩石	大下F	9.2	6.8	6	0.57	完存	—	—		片岩系か。方形
25	叩石	大下F	8.1	7.1	3.1	0.26	完存	—	—		片岩系。円形
26	叩石	大下F	6.5	5.4	2.7	0.12	約3分の1	—	—		片岩系か。円形
27	叩石	大下F	7.4	6.4	4.2	0.35	完存	—	—		片岩系か。方形
28	叩石	大下F	7.8	6.3	3.7	0.25	完存	—	—		片岩系か。楕円形
29	叩石	大下F	7.2	6.8	5.5	0.45	完存	—	—		玄武岩。円形
30	叩石	大下F	6.3	6	5.6	0.36	完存	—	—		流紋岩系。円形
31	叩石	大下F	7.2	6.6	6.3	0.45	完存	—	—		片岩系か。円形
32	叩石	大下F	6.3	6.2	4.8	0.33	完存	—	—		片岩系か。円形
33	叩石	大下F	7.8	3.5	2.9	0.13	完存	—	—		玄武岩。棒状
34	叩石	大下F	6.8	6.8	5.9	0.44	完存	—	—		片岩系か。円形
35	叩石	大下F	6	4.7	4.4	0.2	完存	—	—		片岩系か。円形
36	叩石	大下F	6.7	6.2	6.5	0.36	完存	—	—		片岩系か。方形
37	叩石	大下F	6.5	6.2	4.6	0.33	完存	—	—		片岩系か。円形
38	叩石	大下F	5.7	6	4.2	0.25	完存	—	—		片岩系か。台形
39	叩石	大下F	7.3	6.9	5	0.39	約2分の1	—	—		片岩系か。三角形
40	叩石	大下F	7.7	6	3.6	0.28	完存	—	—		片岩系か。楕円形
41	叩石	大下F	7.6	5.8	3.3	0.23	完存	—	—		片岩系か。長方形
42	叩石	大下F	7.7	5.7	4.1	0.31	完存	—	—		流紋岩系。楕円形
43	叩石	大下F	7	6.9	5.4	0.4	完存	—	—		片岩系か。円形
44	叩石	大下F	7.1	5.7	6	0.41	完存	—	—		片岩系か。円形
45	叩石	大下F	6.4	5	4.7	0.24	完存	—	—		片岩系か。円形
46	叩石	大下F	6	5.1	3.6	0.21	完存	—	—		片岩系か。方形
47	叩石	大下F	7.6	6.4	3.7	0.38	完存	—	—		片岩系か。円形
48	叩石	大下F	6.4	5.6	4.2	0.25	完存	—	—		片岩系か。円形
49	叩石	大下F	7.4	5.7	3.1	0.22	完存	—	—		片岩系か。楕円形
50	叩石	大下F	7	7	4.4	0.36	完存	—	—		片岩系か。台形
51	叩石	大下F	6.2	5.1	3.8	0.2	完存	—	—		片岩系。楕円形
52	叩石	大下F	7.5	7.2	6.2	0.5	完存	—	—		片岩系か。円形
53	叩石	大下F	7.6	7.2	7	0.72	完存	—	—		片岩系か。円形
54	叩石	大下F	7.2	6.5	5.6	0.46	完存	—	—		片岩系か。円形
55	叩石	大下F	6.9	5.8	3.7	0.24	完存	—	—		片岩系か。円形
56	叩石	大下F	7	5.5	4.7	0.28	完存	—	—		片岩系か。台形
57	叩石	大下F	10.7	6.2	3	0.34	完存	—	—		片岩系か。楕円形
58	叩石	大下F	8.6	8.4	6.7	0.84	完存	—	—		玄武岩。円形
59	叩石	大下F	5.7	5.5	5.2	0.26	完存	—	—		玄武岩。円形
60	叩石	大下F	6.7	4.2	2.8	0.13	約2分の1	—	—		花崗岩。棒状
61	叩石	大下F	7	6.9	3.5	0.26	完存	—	—		片岩系か。円形
62	叩石	大下F	5.6	4.6	1.8	0.06	完存	—	—		玄武岩。円形
63	叩石	大下F	8.3	6.7	5.3	0.48	完存	—	—		片岩系か。台形
64	叩石	大下F	7.1	6.6	4.2	0.35	完存	—	—		片岩系か。台形

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
65	叩石	大下F	6.7	6.6	5.6	0.43	完存	—	—		流紋岩系。円形
66	叩石	大下F	7.7	6.7	5.7	0.42	完存	—	—		片岩系か。三角形
67	叩石	大下F	5.7	5.7	2.8	0.17	完存	—	—		片岩系か。円形
68	叩石	大下F	8.8	7.3	3.4	0.37	完存	—	—		片岩系か。円形
69	叩石	大下F	7.2	6.8	3.8	0.26	完存	—	—		片岩系か。円形
70	叩石	大下C	7.5	7.2	3.3	0.28	完存	—	—		片岩系か。円形
71	叩石	大下D	6.8	5.8	5.4	0.35	完存	—	—		片岩系か。円形
72	叩石	大下D	9.2	7.1	7.1	0.72	完存	—	—		片岩系か。円形
73	叩石	大下F	6.1	5.2	5.4	0.23	約3分の2	—	—		片岩系か。円形
74	叩石	大下D	5.7	5.4	5.1	0.2	完存	—	—		片岩系か。三角形
75	叩石	大下F	6.3	5.1	3.6	0.18	完存	—	—		玄武岩。円形
76	叩石	大下F	6.6	6.4	4.4	0.3	完存	—	—		片岩系か。円形
77	叩石	大下F	7	7	6.3	0.58	完存	—	—		片岩系か。円形
78	叩石	大下F	6.6	6.5	5.1	0.36	完存	—	—		片岩系か。円形
79	叩石	大下F	7.6	5	3.5	0.29	完存	—	—		片岩系か。長方形
80	叩石	大下F	6.3	4.7	5.2	0.26	完存	—	—		片岩系か。円形
81	叩石	大下F	7.7	6.5	5.6	0.36	完存	—	—		玄武岩。円形
82	叩石	大下F	6	5	2.7	0.11	完存	—	—		流紋岩系。円形
83	叩石	大下F	6.3	6.1	4	0.26	完存	—	—		片岩系か。円形
84	叩石	大下F	7.2	6.2	4.7	0.3	完存	—	—		片岩系か。円形
85	叩石	大下F	6.4	5.4	4.1	0.22	完存	—	—		片岩系か。円形
86	叩石	大下F	6.7	6.5	5.1	0.38	完存	—	—		片岩系か。円形
87	叩石	大下F	8.8	7.6	5.3	0.46	完存	—	—		片岩系か。三角形
88	叩石	大下F	6.6	5.1	3.6	0.26	完存	—	—		片岩系か。長方形
89	叩石	大下F	6.5	6.2	4.1	0.31	完存	—	—		片岩系か。長方形
90	叩石	大下F	7.8	7.3	5.9	0.55	完存	—	—		片岩系か。円形
91	叩石	大下F	6.9	6.3	6.1	0.45	完存	—	—		片岩系か。円形
92	叩石	大下F	6.6	5.6	3.7	0.23	完存	—	—		片岩系か。円形
93	叩石	大下F	7.4	6.6	4.3	0.32	完存	—	—		片岩系か。円形
94	叩石	大下F	5.9	5.6	4.3	0.26	完存	—	—		片岩系か。台形
95	叩石	大下F	8.4	7.5	7	0.73	完存	—	—		片岩系か。三角形
96	叩石	大下F	7	6.3	3.3	0.21	約2分の1	—	—		玄武岩。円形
97	叩石	大下F	5.9	4.9	4.8	0.22	完存	—	—		片岩系か。三角形
98	叩石	大下F?	6.6	5.5	4.6	0.25	完存	—	—		花崗岩。円形
99	叩石	大下F?	5.8	5.1	4	0.18	完存	—	—		玄武岩。円形
100	叩石	大下F?	4.2	6.3	5.3	0.72	完存	—	—		玄武岩。棒状
101	叩石	大下C	8	6.7	3.6	0.27	約2分の1	—	—		流紋岩系。楕円形
102	叩石	大下C	7.1	6.8	4.1	0.33	完存	—	—		流紋岩系。円形
103	叩石	大下C	8.2	7.2	3.2	0.33	約2分の1	—	—		流紋岩系。円形
104	叩石	大下C	7	6	2.6	0.21	約2分の1	—	—		片岩系か。円形
105	叩石	大下C	6.4	5.7	4.9	0.32	完存	—	—		片岩系か。台形
106	叩石	大下C	6.3	6.2	5.2	0.32	完存	—	—		片岩系か。円形
107	叩石	大下C	7.6	6.5	5.5	0.48	完存	—	—		片岩系か。円形
108	叩石	大下C	7.8	6.5	5.7	0.48	完存	—	—		片岩系か。円形
109	叩石	大下C	6.7	6.5	3.7	0.28	完存	—	—		片岩系か。円形
110	叩石	大下C	6.3	6.2	4.9	0.33	完存	—	—		片岩系か。台形
111	叩石	大下C	6	4.6	3.3	0.14	完存	—	—		玄武岩。楕円形
112	叩石	大下C	9.7	5.2	3	0.22	完存	—	—		玄武岩。楕円形
113	叩石	大下C	10.4	9.2	4.3	0.65	完存	—	—		玄武岩。円形
114	叩石	大下C	7	6.5	6.3	0.52	完存	—	—		片岩系か。円形
115	叩石	大下C	6.7	6.4	2.8	0.21	完存	—	—		片岩系か。円形
116	叩石	大下C	7.8	7.5	4.3	0.36	完存	—	—		片岩系か。円形
117	叩石	大下C	5.7	5.3	3.4	0.15	完存	—	—		片岩系か。円形
118	叩石	大下C	6.6	6.3	5.5	0.37	完存	—	—		片岩系か。円形
119	叩石	大下D	6.9	6.4	3.4	0.23	完存	—	—		片岩系か。楕円形
120	叩石	大下D	7	6.6	5.7	0.39	完存	—	—		片岩系か。台形
121	叩石	大下D	7	5.3	4.5	0.23	完存	—	—		片岩系か。三角形
122	叩石	大下D	7.1	6.5	4.5	0.32	完存	—	—		片岩系か。台形
123	叩石	大下D	8	6.3	4	0.3	完存	—	—		片岩系か。三角形
124	叩石	大下D	5.7	5.4	2.9	0.14	完存	—	—		片岩系か。円形
125	叩石	大下D	6.1	4.8	3.3	0.13	約2分の1	—	—		片岩系か。円形
126	叩石	大下D	8	7.8	3.9	0.4	完存	—	—		片岩系か。円形
127	叩石	大下D	7.8	7.1	4.8	0.4	完存	—	—		片岩系か。円形
128	叩石	大下D	9.1	6.4	4.8	0.5	完存	—	—		片岩系か。長方形
129	叩石	大下E	7.1	6.6	5.7	0.46	完存	—	—		片岩系か。円形
130	叩石	大下E	7.1	6.9	5	0.35	完存	—	—		片岩系か。円形
131	叩石	大下FC	8.3	5.4	4.5	0.28	完存	—	—		片岩系か。三角形
132	叩石	大下FD?	9.7	8.3	7.8	0.98	完存	—	—	5図-17	玄武岩。円形
133	叩石	大下FCD	5.7	5.1	4.8	0.23	完存	—	—		片岩系か。円形
134	叩石	大下FCD?	4.7	6.4	5.4	0.28	約2分の1	—	—		片岩系か。三角形
135	叩石	大下FCD?	7.8	5.3	4.1	0.24	完存	—	—		流紋岩系。楕円形
136	叩石	大下FCD?	7.3	5.8	4.7	0.22	完存	—	—		流紋岩系。楕円形
137	叩石	大下FCD?	6.1	6.2	3.9	0.27	完存	—	—		片岩系か。円形
138	叩石	大下FCD?	5.7	6	4.3	0.22	完存	—	—		片岩系か。方形

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
139	叩石	大下FCD?	5.1	5.3	5	0.25	完存	—	—		片岩系か。台形
140	叩石	大下FCD?	7.2	7.3	3.8	0.34	完存	—	—		玄武岩。三角形
141	叩石	大下FCD?	4.6	6.1	4.8	0.26	約2分の1	—	—		片岩系か。三角形
142	叩石	大下FCD?	9.7	6.6	6.3	0.64	完存	—	—		片岩系か。方形
143	叩石	大下FCD?	8.2	6.1	5.2	0.35	完存	—	—		玄武岩。三角形
144	叩石	SH	6.7	4.6	5.4	0.25	完存	—	—		片岩系か。台形
145	叩石	SH	5.7	8	6.9	0.42	完存	—	—		玄武岩。台形
146	叩石	SH	6.1	7.1	6.8	0.61	完存	—	—		片岩系か。円形
147	叩石	SH	6.1	6.9	3.3	0.2	完存	—	—		片岩系か。楕円形
148	叩石	SH	5.9	6.7	4.7	0.3	完存	—	—		流紋岩系。不正円形
149	叩石	SH	5.2	5.8	3.5	0.22	完存	—	—		流紋岩系。方形
150	叩石	SH	5.8	8.1	3	0.22	厚さ2分の1	—	—		流紋岩系。楕円形
151	叩石	SH	6.3	6.6	5.3	0.38	厚さ2分の1	—	—		流紋岩系。円形
152	叩石	SH	6.7	6.4	6.3	0.39	完存	—	—		玄武岩。円形
153	叩石	MK	8.5	7.1	3.7	0.36	約2分の1	—	—		玄武岩。棒状
154	叩石	YK	6	5.7	6.8	0.37	完存	—	—		片岩系か。円形。 ※「60.11.7 与吉山畑」 の注記有り
155	叩石	KO	8.8	6.6	4.4	0.36	完存	—	—		玄武岩。楕円形
156	叩石	KO	8.2	6.3	5.3	0.49	完存	—	—		玄武岩。台形
157	叩石	KO	6.9	5.6	5	0.3	完存	—	—		玄武岩。円形
158	叩石	HA	8.3	5.7	5	0.34	完存	—	—		片岩系か。三角形
159	叩石	不明	8.6	8.1	3.7	0.42	約2分の1	—	—		玄武岩。台形。全面に 敲打痕有り
160	叩石	不明	9.2	5.6	4.7	0.4	完存	—	—		片岩系の石か。楕円形
161	叩石	不明	7	6.4	3.4	0.22	完存	—	—		片岩系の石か? 三角形
162	叩石	不明	6.6	5.8	4.1	0.29	完存	—	—		片岩系の石か。円形
163	叩石	不明	6.6	6	4.6	0.35	完存	—	—		片岩系の石か。円形
164	叩石	不明	8	6	5	0.35	完存	—	—		玄武岩。台形
165	叩石	不明	7.5	6.3	5	0.38	完存	—	—		片岩系の石か。円形
166	叩石	不明	8	7	3.6	0.34	完存	—	—		片岩系か。円形
167	叩石	不明	6.5	6.1	3.9	0.24	完存	—	—		片岩系か。円形
168	叩石	不明	13.8	9.8	7.9	1.06	完存	—	—		玄武岩。不正円形。大 型叩石
169	叩石	不明	8	7.2	4.5	0.45	完存	—	—		片岩系か。台形
170	叩石	不明	7.7	6.1	4.8	0.39	完存	—	—		片岩系か。三角形
171	叩石	不明	6	5.5	3.1	0.14	完存	—	—		片岩系か。円形
172	叩石	不明	6.8	6	3.8	0.22	完存	—	—		片岩系か。台形
173	叩石?	不明	9.5	7.5	5.9	0.72	約2分の1	—	—		玄武岩。楕円形
174	叩石	不明	10.2	8.5	4.8	0.63	完存	—	—		片岩系の石か。三角形 でやや大型

表5 採集資料一覧 3 (打製石斧)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	打製石斧	大下F	14.4	7.3	3.7	0.49	体部～刃部	II	—	4図-11	体部がくびれる。縄文 の打製石斧状。小型
2	打製石斧	YK	10.3	6.2	2.6	0.25	ほぼ完存	II	—		
3	打製石斧	不明	9.7	6.1	2.6	0.21	完存	II	—		

※表の備考に石材の記載がない石器は玄武岩製

表6 採集資料一覧 4 (石包丁)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	石包丁	大下F	9.5	5.4	2.5	0.18	完存	II	—		玄武岩
2	石包丁?	大下F	9	4.3	1.7	0.12	完存	II	—		玄武岩
3	石包丁?	大下F?	12.8	6.4	2.3	0.27	約4分の3	II	—		玄武岩
4	石包丁	不明	10.3	6.1	2.6	0.22	約3分の2	II	—		玄武岩
5	石包丁	不明	10	5.8	2.8	0.22	完存	III	—		玄武岩
6	石包丁?	不明	7.8	10.2	1.8	0.22	完存	III	○	4図-12	滑石系の円礫を原石と する
7	石包丁?	不明	11.8	7.7	2.4	0.25	約3分の2	II	—		玄武岩
8	石包丁	不明	15.5	9.3	4.2	0.84	完存	II	—		玄武岩

表7 採集資料一覧 5 (石鎌)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	石鎌	宮下広場	6.4	13.1	2.1	0.25	先端から約3分の2	II	—	4図-13	玄武岩
2	石鎌	大下F	9.8	6.4	2.1	0.2	先端から約2分の1	II	—		玄武岩
3	石鎌?	大下F	16.6	5.7	3	0.43	ほぼ完存	II	—		玄武岩
4	石鎌	不明	17.2	8	3.7	0.72	先端部～4分の3	II	—		
5	石鎌?	不明	7	8.2	3	0.29	先端部	II	—		玄武岩
6	石鎌?	不明	8.2	6.3	2.8	0.2	先端部	II	—		石包丁の可能性もあり。 玄武岩
7	石鎌?	不明	15	7	3.6	0.46	完存	II	—		
8	石鎌	不明	9.6	6.2	2.8	0.22	先端部	II	—		玄武岩

表8

採集資料一覧 6 (石鍾)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	石鍾	大下F	6	7	2.3	0.16	完存	—	—	5図-14	玄武岩。円磔
2	石鍾?	大下F	7.1	5.7	4.6	0.25	約3分の1	—	—		滑石
3	石鍾?	不明	13.3	10.1	7	1.3	完存	—	—		滑石
4	石鍾?	不明	13.3	10.5	4	0.83	完存	—	—		滑石

表9

採集資料一覧 7 (石戈・石剣)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	石戈?	大下C	14.3	10.1	4.2	0.57	約2分の1	II	—	5図-15	玄武岩
2	石戈?	大下F	13.2	10.8	4.7	0.7	約2分の1	II	—		玄武岩
3	石剣?	大下F	9.1	4.3	1.6	0.1	約2分の1	II	—	5図-16	玄武岩

表10

採集資料一覧 8 (砥石)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	砥石	大下FCD?	8	2.1	2.7	0.07	破片	—	—		頁岩系。中砥
2	砥石?	HA	6.5	3.2	1.6	0.06	完存	—	—		砂岩?

表11

採集資料一覧 9 (その他)

No	遺物名	出土位置	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (kg)	遺存部	段 階	自然面	挿 図	備 考
1	瓦片	SH	7.5	7.3	2.1	0.1	—	—	—		
2	土器片	SH	6.2	7.9	1.2	0.08	口縁部片	—	—		須玖
3	土器片	SH	4.1	7.1	2.3	0.06	底部片	—	—		弥生
4	土器片	KO	7.7	8.3	0.7	0.6	体部片	—	—		弥生
5	土器片	不明	9.3	6.1	1.1	0.07	体部片	—	—		内面ハケ目、外面ハケ目・ケズリ調整。古墳か
6	土器片	不明	4	3.5	1	0.02	小破片	—	—		土師器片
7	作業台?	不明	20	17	5.8	2.52	約2分の1	—	—		流紋岩系の石か。長方形
8	剥片?	不明	12.3	6.5	3.2	0.32	完存	II	—		石斧製作中のチップか
9	剥片?	不明	11.8	4	2.4	0.11	—	—	—		石斧製作時の剥片か
10	不明	大下F	19.9	10.2	7.4	1.38	途中で折れ	—	—	5図-19	滑石
11	不明	YK	11	5	1.7	0.13	完存	—	—		滑石。※「60.11.7 山畑 与吉」の注記有り
12	不明	不明	11	9	5.5	0.82	体部	II	—		薄形の石斧か
13	不明	不明	10.5	6.3	4.7	0.48	完存	—	—		片岩系の石か。敲打痕なし。叩石の素材か
14	不明	不明	24.3	6.5	1.5	0.41	完存	I	—		
15	不明	不明	8.3	5	2.4	0.16	完存	—	—		

※表の備考に石材の記載がない石器は玄武岩製